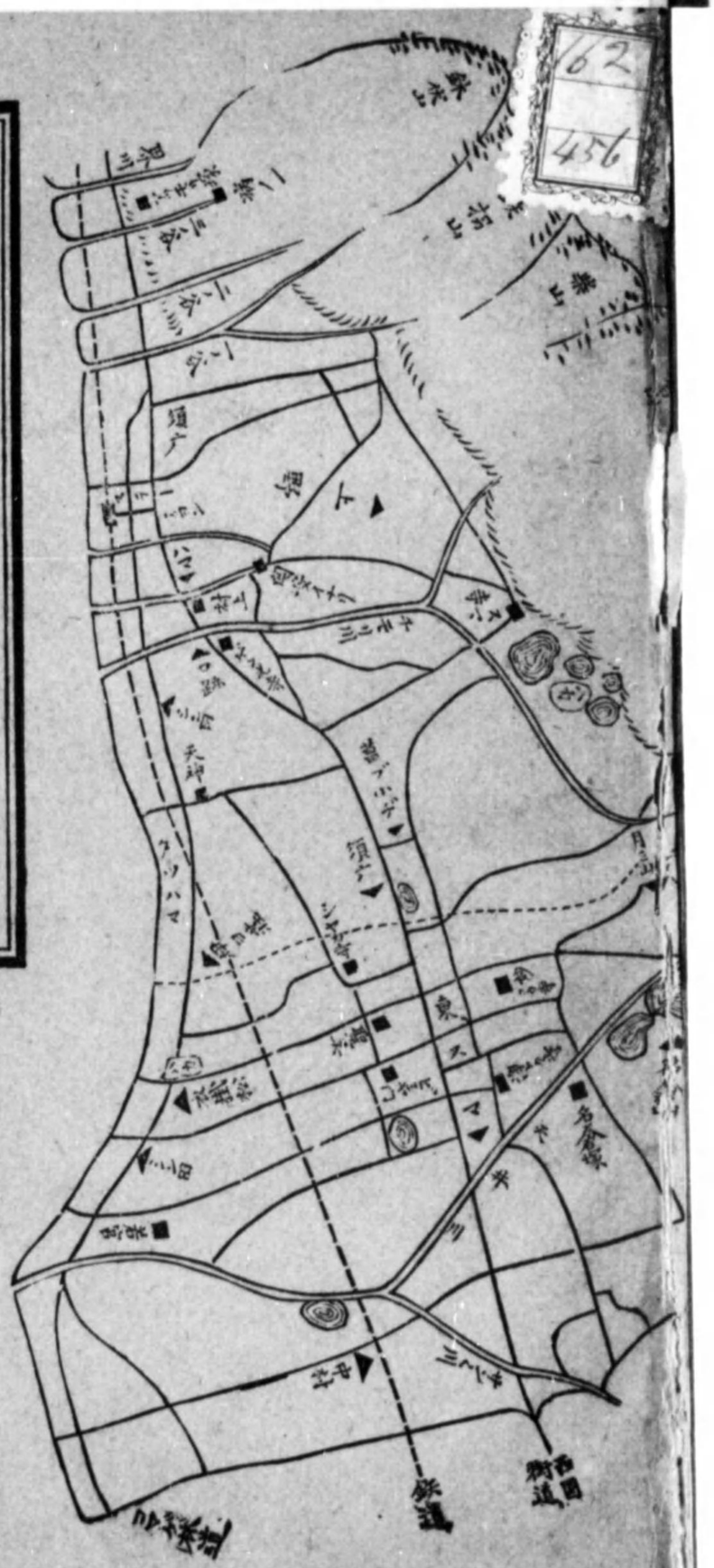
七×516

162
456

須磨名所獨案内



特29
482

須磨名所獨案內序

名山勝區有可以戰史傳。有可以佳景傳。獨至兩者兼傳者不見多。我朝芳山唐山赤壁稍其比儔也乎。然芳山有山無水赤壁不過一瞥夜色不共可謂佳絕双致。只攝西之須磨可始兼傳焉。朝來望西南白帆懸乎青松之上。海霧鎖四國淡砂蜿轉其間。而朝暾稍昇茅海漲紅。波山讚峰可指點。紀泉諸繼喚則欲應。其如海潮清澄漂玉溫柔似油。以可浴以可泳。可與波上閑鷗貪懶眠也。晚暮回首鐵拐峰頭松栢吹翠嵐。鉢伏山下虫聲送水

冷。而及稍更東濤吐海月滿目洋々碧如空。漁笛
肅々和松琴灣頭寂々與人靜。遠聽之如訴平氏
當年之恨近聽之似行平卿謫居餘韻。其宜朝宜
暮。比諸乎芳山之無夜趣赤壁之無晝景果奈何。
余今年壬辰七月始來駐在三旬餘。具歷山川觀
名勝詳知戰史佳景兩者可兼傳者攝西之須磨
焉頃法友日雄師纂錄須磨名所獨案內稿成。徵
序于余々不辭則書所見爲序

明治廿五年壬辰八月八日　東須磨　妙興精舍客次

任天居士識

須磨名所獨案內目次

任天居士

●須磨名所獨案內序　一
●東西兩須磨村の記　三
●東西兩須磨村の沿革　六
●蹈み出し　仝
●須磨停車場　仝
●惠美須社　仝
●路守橋　七
●櫓跡　仝
●盤濱蹟　八
●諏訪明神　仝
●綱敷天神　九
●神石　十
●衣掛松　十一
●若宮　十二
●磯馴松　十三
●葉簞　十四
●隧道　十五
●天井川　仝
●名倉塚　仝
●名倉山　仝
●淨德寺　仝
●本尊　仝
●荒神堂　仝
●庚申堂　仝
●地藏尊　仝
●藥師如來　仝

●妙興寺　十六
●本尊祭佛　仝
●寶　物　仝
●鎖護殿　十七
●月見山　十八
●月見の松　仝
●不動尊　十九
●牛　塚　仝
●昆沙門天　二十
●西　月　仝
●稲荷社　二十一
●聖靈權現　二十二
●塚まち　仝
●釋迦寺　仝
●本　尊　二十三
●烏池地藏尊　仝
●菖蒲小路　二十四
●松風村雨　仝
●前田氏舊屋　二十五
●產　品　仝
●菅の井　二十六
●長田社　仝
●辨天堂　二十七
●賴政藥師　仝
●地藏尊　二十八
●外　門　仝
●重衡松　二十九
●源光寺　仝
●寶　物　三十
●芭蕉翁句碑　仝
●風月庵似雲跡　仝
●似雲碑　三十二

●關守橋　三十三
●須磨關屋跡　仝
●路守川　仝
●隱れ江　三十四
●元三大師　仝
●須磨寺　三十五
●仁王門　仝
●行者堂　仝
●若木の櫻　三十六
●中　門　仝
●寶　物　仝
●敦盛堂　三十七
●十玉堂　仝
●護摩堂　仝
●相生の松　三十八
●大師堂　仝
●腰掛松　三十九
●辨慶の鐘　仝
●水大師　仝
●釣竿の竹　仝
●敦盛頸塚　仝
●八十八个所　四十
●奥の院　仝
●卜心地藏尊　四十一
●地　神　仝
●關守稲荷社　仝
●蛇　窟　四十二
●村上帝社　仝
●片枝松　四十三
●師長の塚　仝
●馬　塚　四十四
●上　野　仝

●後山　四十五
●鐘掛松　仝
●扇松　四十六
●勢揃の松　仝
●一の谷　仝
●鉢伏山　仝
●鉄枴山　四十七
●内裏跡　仝
●海月館松の家　仝
●戰の濱　四十八
●二の谷　仝
●保養院　仝
●庚申塚　四十九
●經正最期の松　仝
●三の谷　仝
●療病院　仝
●熊谷平山一二の懸け　五十
●敦盛塔　仝
●窯稲荷社　五十一
●妙見宮　仝
●境川　五十二
●火峠　仝
●鵜越　仝
●須磨名物翠簾　磯馴味噌　五十三
須磨焼　濁酒
●須磨名所獨案内跋　奥山勿來

須磨名所獨案内

須磨灣々漁長

●東西両須磨村の記

須磨村は兵庫縣下攝津國八部郡内に在りて元は一村の名稱なりしが過る明治廿一年より須磨村を初め十個村を合村し稱る所の村名となれり由て元の東西両須磨村を須磨村の内東須磨村與須磨村と名稱するとくなりぬ抑も此村名の起元は攝津國の西南隅に位するより隅の浦と稱へしを用明天皇の御宇國郡村名に二字以上の制を立てられ給ふより隅を瑕瑾と替へ再び瑕瑾を須磨と替へ其後海底の淺せ果て船舶の碇泊なく全く絶かるより終に浦を改め村となし中古より須磨村と稱へしとぞ又或村老の說に上古西須磨村の氏神は諏訪大明神なりし故へ其神號に因み諏訪の浦と稱へしを中古諏訪を瑕瑾と訛より終に須磨の浦になりたりしと云ふ此村内の西須磨村は十个

村を合村し須磨村と改稱有りし其際より須磨村濱須磨新田の三を合し改稱せる処の村名なり此村の舊地高は四百八十四石餘屋數は凡三百五十戸ありて其境界は廣く東は東須磨村と接し西は界川に於て播州盧屋村と對し南は海に沿て境り北は山に隨ひて多井畑村と界をなし其面積甚だ多し然れども大概山林は官林又は御料地にして唯平坦なる耕地のみ民有地に屬し殆と其面積相等し又東須磨村は往古辻堂有りしより辻堂村と稱へしも後世に至り西須磨村に對して東須磨村と改稱せり此村の舊地高は千二十四石餘屋數は凡二百五十戸ありて其境界は最も廣く東は大手野田の両村に跨り西は西須磨村に連り南は濱を以て北は山によりて多井畑村と境界をなし其面積最も多く其三分の一は山林にして三分の二は耕地なり山林は大槩官林又は御料地に屬し耕地も全く民有地に屬し八部郡第一の大村なり此両村の人民は性質淳朴にして海岸に住む僅の漁民を除の外皆農業をなせり又此地氣候暖和にして天然の風致に富み俯て東南を望めば漫々たる蒼海を踏み遙に見越せば遠く紀伊和泉近くは淡路播磨

灘汽船和船は往來し汽笛欸乃の絶間なく漁舟は白鷗と打ち交り波の間に〳〵見へかくれ仰て西北を顧みれば峨々たる群峰を戴だき眸を左に轉すれば松が枝に垂れ亘りたる一の谷磯馴松に懸連き春は曙に色を添へいとうるはしく又眸を右に轉すれば廣き上野に月見山名にしおふ秋の夜の月は此地の景勝にて筆以て尽し及ばれぬ其風光の妙なるに且泉水いと清く空氣は時々交換し衛生上適切の勝地にあれば山野に倘伴する者は其情を慰し海水に沐浴する者は其痾を滌ひ脚氣鬱症等の如きは藥餌を要せずして平癒すと實に是れ天惠の土地と云ふべし尚ほ之に加ふるに鐵道の便あり いつも時を定めて火轉車は上り下りに轟々と立つ烟さへいと勇ましく旅客 遊客 養生の人は我も〳〵と集ひ來て春夏秋冬の絶間なく中にも夏候は殊更に暑を避る客多く日増に賑はふ山陽第一の名地なりけり

●東西両須磨村の沿革

須磨村の起元を遡原るに未だ其確實なるとを聞き得ざるなり因て其地形地質幷に

日碑に據り上古を推考るに現今の地形西北は山嶽を以て圍み其山腹より段をなして東南に斜降し以て海に濱し溪澗の水は地平より高く流れて海に入り土地は海を埋めて廣がり人家は山下に村落をなせり是は之れ地勢の變更せしにて上古は高く流れて水もなく海に廣がる土地も無く唯上野と稱る所のみ有りて今人家有る処は上古の海底にて人民は今蛇窟と稱る所に穴居せしなるべし是れ人民居住の權輿にして其後上野の彼此地に家作し今口碑に傳るが如く都合十七軒を以て一村を爲し街道は今上道と稱る月見山の下字古屋敷より須磨寺の橋傍を過ぎ鐵枴山の北部を登り播州地方へ越す間道にして未だ當今の街道はあらざりしと云ふ卽ち是れ當村の起元なり然に當村は地質夾砂なる山麓なれば土砂は絶ず海濱に流出し月々其幅員を廣濶ならしめ人口の彌繁殖し其戸數の增加するに隨ひ之を開拓し新田の漸々と開るに隨ひ人民之に居を移し終に全く轉住し爰に至て比蕊の村落を爲せり是れ東西兩須磨村の起元なり然る所中古鵯越の本道廢れ現今の街道西國筋の本街道となり且東須磨村は

宿驛となり爰に繁昌の基礎を開き是より後名高き關所の設置あり行平卿の謫地となり安德帝の皇居となり尋て源平二氏の戰場となり是等の事故に伴はれ其世と共に浮沈なせしも却て之が爲め後世其名著く殊に維新の後村名改稱あり又世の文明するに從ひ鐵道の布設あり東西往來の便捷なるより病院旅店を初めとし縉紳豪家の別莊等日を追て建築あり未だ數年ならざるに舊觀をあらため頓に繁華の地となりぬ

著者は既に兩須磨村の事を記及び沿革の所に說きたれば是より更に停車場を蹈出とし名所古蹟の順路を明示し其道のまに〳〵名所古蹟の由來を親切に說き明すべし但○のしるしあるは道の行き方を示す

蹈み出し

●須磨停車場

本場の位置は須磨村の内西須磨村濱町の海岸にありて過る明治廿一年十二月廿五日開業せし山陽鐵道第二の停車場なり里程は兵庫より壹里半と云ふ

○本場の濱に惠美須社あり又本場を出て直に道を右へとり行くべし一丁餘にして路守橋あり此道は駒が林へ行く街道なり

●惠美須社

祭神は蛭兒尊　勸請の年月は　詳ならず　是は漁民の海利を祈る神にして毎年舊正月十日同六月十日と両度の祭典あり濱邊賑はへり

●路守橋

此橋は路守川の末流に架るを以て路守川の橋と云ひしを終に約めて今は路守橋と云

ふ此両堤防は明治廿四年十月村中より開拓し樹木を植付けいと眺めよくなりし

○是より北を見れば岸あり之を櫓跡と云ふ又東へ半丁程行けば人家あり之を新田と云ふ此新田は文祿年間に開けしとぞ又新田の東端に在る田畑の所を鹽濱跡と云ふ

●櫓跡

是は一の谷の城東門の櫓跡と云ふ抑も一の谷の城は路守川を外壕とし一の谷を内壕とし播州鹽屋村の川を搦手の壕となしありしと云ふ

●鹽濱蹟

此濱の興廢年度詳ならず又其區域も年久く田畑となりしを以て今之を知るに由なく只其名字となり殘るより其古蹟なるを知るのみ然るに此濱は彼の有名なる松風村雨の二女潮汲みせし所とて世に名高くれは齋衡年度の比はいとも盛なる鹽濱なりしと見ゆ

○此上方の松ある森林は諏訪明神の境内なり是より東方に諏訪明神へ行く道あり

●諏訪明神

祭神は武甕槌命　觀請の年月詳ならず　本社は東に向さ有る故へ東向の明神と稱へ有名なる當村の氏神にして近村近郷より參詣あり上古は繁昌せし宮なりしも中古村民長田神社を信ずるより氏子替へとなり其より漸々に衰へ終に此神社有るを知る人無きに至れり然れども祭典は毎年舊七月廿七日にありて其近邊賑はへり

○本社の馬場先に綱敷天神の社あり

●綱敷天神

本社は菅公左遷の御途次海上荒ければ武庫港より上陸し給ひ延喜三年霜月八日此地の村甲前田氏へ寄泊させ給ふ其砌浦人船綱を以て圓座に作り影向の松の下へ御座を設け奉れば菅公安座し給ひ此浦の景色を賞し御喜悦斜ならざりしとぞ前田氏に此時の御姿を木像に摸し奉祭せしを中古信者等の請ひにより此諏訪明神境内へ勸請せしと又一説に菅公當浦御碇泊の時此所に上られ給ひ漁民共網綱の圓座を奉り菅公御喜悦ありし其紀念として後世爰に勸請せしと云ふ勸請の年月両説とも詳ならず

祭典は毎年舊正月廿五日同六月廿五日なり正月祭は夜鬼踊とて村の若者筒袖に股引を着其上を碁盤の目に約り帶劔して鬼面を被る其赤鬼は鉾青鬼は木槌を持ち打合の法を爲す其間には各麥藁明松を片手に持ち鉾と槌とを振り廻し狂ひ踊り村中殊に賑はへり

●神石

是は本社の左右の側に在る石を云ふ此石に春日八幡の神號を彫み有る故に此名あり口碑に往古諏訪明神の攝社廢絶せし其宮石なりと云ふ

是は境内の東隅にあり明治十年暴風の爲めに折て今其切株を保存す此所は上古の海岸にて菅公の松下に浦の風景を眺め給ひし古跡なり是より此松を影向の松と云ひ世に名高くあり

○本社の華表を出で駒が林街道を東へ行べし此邊を辰濱と云ふ又村境の西側を字伊

豫莊と云ふ此村境より二三丁の所に東須磨村共有墓地あり之を過ぎ行く所に松林あり其西端に衣掛け松あり又松林の北下の田中に寶篋院塔あり

●衣掛け松

此古松は行平卿歸洛の時餘波をしくとて此所へ出で給ひて此松ケ枝に上衣を掛け置き浦の風景を眺望給ふ是より衣掛け松と云ふとぞ又松風の謠曲により名付とも云ふ

此松明治廿三年七月村人斫て薪となし今其斫り口を見るのみ

●寶篋院塔

此塔は平頼盛の長男從二位光盛卿の墓と云ふ元と三塔ありしを今を去る五六十年以前澳間に碇泊せる薩州の海船あり竊に夜來りて中の一を盜み去れりと

○元の街道に出で東へ行べし直に人家あり是は今を去る六十年以前に開けし東須磨村の新田なり又此新田を行き過れば北方の田中に若宮の社あり又濱に磯馴松あり

●若宮

祭神仁德天皇にして祭日は毎年舊八月十五日此近邊賑はへり

此社の由緒詳ならず一說に確實ならざれども村の風門鎭護の社と云ふ

●磯馴松

是は磯馴松とて一種の松あるにあらず總て須磨村海邊に在る濱松を云ふ諺に昔行平卿歸京ある名殘を惜み悉く此松の枝都の方へ靡きしと云ふ

○若宮を出て西方の田道を北へ行き本村に入るべし村の入口に池あり是は幸池とて村用水なり此池の下方を中嶋と云ふ是は往古移轉せし舊穢多中村の屋敷跡なり是より本街道に出で右へ行へし幸池の上方に須磨村役場あり又此邊を葉箒と云ふ又隧道天井川あり

●葉箒

是も何時のことか長州侯參勤の時此処に休憩せられ其折葉なりの竹箒を以て掃除せしを御覽あり其は何と申す箒歟と御尋あれは其者頓智を以て葉箒と申す趣を御答

申上しと是より此者の頓智を賞賛するより終に此所の字となりたりと云ふ此所維新迄は立場にて繁昌の地なりと

葉帯で案内とりて西東すまからすまへ塵もの こさす　　蜀山人

又此所に葉帯脚半とて脚半の名物ありしも今は絶てなし

●隧道

是は元と川越へせしを隧道となし明治十九年より開通せり之を村人名付てあなもんと云ふ此上の川は天井川なり

●天井川

此川は東須磨村の西北青谷因幡の二山より發し東須磨村人家の北より東へ旋り妙法寺川と中村の西にて合し海に注く口碑に上古は此川半丁程東に在りしと云ふ

○隧道を過ぎ村端より山方に見ゆる村は大手村街道筋に見ゆるは西代村濱方に近く見ゆるは中村遠く見ゆるは野田村駒が林村なり是より天井川の東岸下をつけ北へ壹

丁程行くへし名倉塚あり又此塚より壹丁程北に松林あり之を名倉山と云ふ

●名倉塚

是は元と名倉山に在りしより此名あり壽永の亂討死せられし貴人の塚なりと云ふ又一説には祭神愛宕神社にして村の鬼門鎭護なりとも云ふ委き由緒わからす

●名倉山

此山へ慶應年間長州侯陣屋を建て警衛あり此時山上の塚を右の処へ移轉せり又此陣屋より月見山へ候兵を置き外船の往來を見張せられし

○是より名倉塚に歸り上の天井川を越へ本村へ入り右へ小壹丁行き左へ曲る直に淨德寺あり又左に曲らす少し行き過き右へ半丁程行く処に妙興寺あり

●淨德寺

本寺は月見山と號し長言古義にて高野山蓮華三昧院の末寺なり創立は久安三年開基仁海上人にして元は村の北端に在りしを明治廿年春此処に移せり

●本尊

千手觀音　長壹尺五寸　祭日毎月十八日　是も元と由緒ある佛体なりしも天井川洪水の時散失して今其事詳ならず

●荒神堂

是は供水の爲め由來つまびらかならざるも無比の荒神とて講中許多あり又祭日は舊七月廿五日にして遠近より參詣あり殊に賑はへり

●庚申堂

祭典は庚申月ごとにありて賑はへり

以上は淨德寺の祭佛なり

●地藏尊

長壹尺五寸の坐像佛にて元と辻堂の一なる眞光寺の本尊なりしを同寺廢絶の時より當寺へ安置す此佛往古はすわりの地藏尊とて名高く參詣人多くありし祭日は毎月十

七日

●藥師如來

是は元と大手村勝福寺の末圓福寺の本尊なるを明治十五年圓福寺廢絶の時村民長谷川氏購ひ得て本寺へ納置せり此本尊の由來は　光孝天皇仁和三年在原行平卿須磨詫居の時東方瑠璃世界の藥師如來を信じ只管歸參の赦免を祈願す折節靈夢あり藥師如來因幡國へ出現する其日を以て祈願成就すべしと其後三年を經て　宇多天皇寛平二年歸洛の恩命を蒙り直に歸京せり其否や不思議なる哉因幡國より海中出現の藥師如來を供奉し登京するに遇ふ行平卿大に感悅し給ひ何の備も無ければ取合ず碁盤を以て臺座に捧げ奉迎せり是れ卽ち西京因幡藥師なり是より行平卿須磨の事を思ひ出られ自ら同じ藥師如來の像を作り須磨紀念の爲め一宇を建立し之に如來を安置せられ給ふ是れ圓福寺の本尊なりこの故に本尊を因幡藥師とも歸京藥師とも云ひ又圓福寺を祈願成就せしを以て成就院とも云ふなり復其後壽永の兵燹に罹り堂宇燒失せし

も本尊のみ火災に罹らざりしより火除藥師と云ふ斯く往古より有名なる藥師にして毎月八日の祭日には殊外參詣人ありて賑はへり

●妙興寺

月見山妙興寺と號し日蓮宗八品派にて京都本能寺尼が崎本興寺の両末寺なり當寺は日隆大上人の開基にして往古は村中第一の大寺なりしも天明年間火災にかゝり什寶書類共燒失して創立等のゝ都て詳ならす因て本寺中興の本解院の上人を再祖と なせり祭日は毎年祖師忌日舊十月十三日日隆大上人忌日舊二月廿五日にして説教あり村中大に賑はへり

●本尊祭佛

題目　釋迦牟尼佛　多寶佛　十界勸請の本尊　祖師日蓮大菩薩　開基日隆上人

●寶物

祖師日蓮大菩薩一幅　大辨阿闍梨日昭上人直筆本尊一幅　開基日隆大上人眞筆本尊三幅

浮游石貳個　祖師日蓮大菩薩御直筆の一字一石なり

●鎭護殿

妙興寺の門前にあり本尊は三十番神にて祭日は毎年舊八月十五日なり常に參詣あるも祭典の日は殊更に多く村中賑ふ　或説に元と此森は行平卿賞月亭の跡にて卽ち行平卿を祭り有りしを中古より三十番神となせりと云ふ攝津名所圖繪に月見松七本あり云云又遠見松云云とあり然るに今月見松と稱る松は昔より七本なく只二本あるのみ又遠見松なるものは知る人絶てなく按するに今の月見松は名所圖繪の遠見松にして月見松は此三十番神に在る松ならむ歟又番神の松は今三本あれども明治五年の暴風までは七本ありし之れ名所圖繪の月見松七本ありしと云ふに符合すれば旁以て番神の松を月見の松と信ず

○是より本寺の西側を山方をさして二三丁行へし月見山の麓にいたる山上に月見松あり又麓をその山路へ登れば不動尊あり

●月見山

是も行平卿謫居中此山上に賞月臺を設けられし古跡なりと云ふよりて山を月見山と云ひ松を月見松と云ふ又中古津田大炊頭此山に城を築く其年月詳ならず又慶應年間此山上へ長州侯陣屋より哨兵の出張わりし所なり

又來る明治廿六年は行平卿一千年忌に相當するを以て其年度の構造にならひ紀念の祠堂を建築し須磨文庫を初め茅屋數棟を建設し須磨の院と名稱し文人雅客の避暑養生の所に宛つと今其計畫中なり

●月見の松

此松下に今を去る八十年程以前迄行平卿の墓と云傳へし石碑ありしが大風雨の時谷底へ落ち土に埋り失せたりと云ふ

松かけや月は三五夜中納言　貞室

●不動尊

是は妙興寺の所屬にして延の行者と一所に安置しある石佛なり此佛は村民友國氏の祖先發起し建立する所と云ふ往古は參詣人許多ありしと又側に稲荷社あり又月見山の乾に見ゆる山を因幡山と云ふ坤に見降す處の田畑を古屋敷と云ふ

○是より本街道へ出づべし其途中左の畑中に小堂あり

●牛塚

是は妙興寺の所屬にして牛頭天皇とし祭るなれども其元と如何なる塚か詳ならず西須磨村に馬塚と云ふあり之と牛馬相對するは何ぞ仔細あるもの歟祭日毎年舊六月十四日にて其近邊露店出て賑はへり

○本街道へ出左へ半丁行く角に郵便局あり西角に松屋と號ふ旅店あり此辻より半丁東に須磨警察署あり又小半丁東へ行く角に酒屋あり其角を曲り濱方へ行く人家出放れの左側の家に昆沙門天を祭る又此家は彼の有名なる俳人西月の居住せし処なり

●昆沙門天

是は村民森本弟左衛門の五六代以前有德の者あり一夜我が所有中島の地に昆沙門天おはしまし朝日の向ふ処へ迎ふへしとの靈夢あり取り合ず行き見れば誠に不思議なる哉昆沙門天田の眞中に安座し給ふ是より靈夢の如く朝日に向ふ今の処へ小堂を作り奉迎せしとぞ其後此家に俳人西月住居せしよりまず〳〵昆沙門天の名高く大に繁昌なせし然るに近年家内へ安置せしより參詣の便を失ひ次第に衰へ今は參詣する者稀なり

●西月

生國尾張國那古屋にして余程の奇人なりしと云ふ西月に男子あり嘗て奥州の某方へ養子に遣す其養子一日實父西月を省る西月對面を許さず養子止を得ず土産の衣服等を置きて歸り其明年復た尋ね來る既に西月死去のあとにて養子の悲歎やまず爲に隣人も共に袖をうるほせしと云ふ養子西月の石碑を墓所平松原に建設して皈れりと

西月

元日やたひ人はわれ須磨のうら　仝

池水に輪をなす花のしづきかな　仝

おもしろき雲や月のはしり入り　仝

須磨寺大師堂の前に教子の建設し西月の句塚あり

ふる雨もしみづになるや花の奥　仝

○昆沙門天より西へ行き當りの左角に立木あり其下に稲荷と稱ふ社あり又北を見る十間斗の処に同く立木の下に社あり又是より濱方へ出で右へ行く処に聖靈權現の社あり又其社地の東南の隅に地藏尊あり

●稲荷社

是は元と稲荷社に非ず只土のもり〳〵なりしが此塚祟り有るとて近年に稲荷社となして祭れるなり口碑なけれども此社東の社塚町の塚は何れも源平二氏の古墳と見ゆ

●聖靈權現

此本社は大手村に在り往古東須磨大手両村の間に葛藤あり其時氏子分離の爲め爰に勸請すと云ふ又聖靈權現と云ふは誤にて熊野證誠權現なり祭日は舊六月廿日八月廿七日なり境内の東方に並びて天神八幡の二社あり又此境内の南隅に石地藏尊あり格別由緒なければ略す

鶴の巣籠の松とて千年に近き名木ありて昔より口碑に傳るのみにて詳かならず

○是より濱方へ半丁程下る処に塚まち有り又是より西へ行き當りに釋迦寺あり

●塚まち

是は其由緒詳ならず或説に壽永の乱に討死せし人の古墳と云ふ今は殆ど田畑となり見るべきものなし

●釋迦寺

是は元と辻堂の一にして本尊釋尊なる故へ俗に釋迦寺と云ふ開基創立は詳ならざ

れども本號は石塔寺なり本寺は維新後廢寺となり當時の住職尼某贖ひ得て今に佛事を執行せり辻堂とは無檀寺にして其町内の眞施により成立せしものなり又當村に辻堂五ケ寺あり即ち石塔寺俗に釋迦寺圓福寺俗に藥師寺眞光寺俗に地藏寺淨土寺勝福寺なり又本寺は淨德寺妙興寺の二ケ寺なり

●本尊

釋迦牟尼佛壹尺余の立像なり又佛具に古鉦ありと云ひ傳れども今見へず

○是より北へ行き本街道に出て西へ行く直に烏か池あり此池の東端は東西両須磨の村境なり此池の西端に地藏尊あり

●烏か池地藏尊

是は烏ケ池に在るを以て斯く云ふなり都て由來詳ならず此石佛を信すれば流行病を除るとて毎月廿四日參詣する人あり

○是より西須磨寺門前迄を上の町と云ふ　地藏尊より少し西へ行く上方に古松あり

其下より須磨寺の橋へ行く道あり之を菖蒲小路と云ふ又松下に松風村雨堂あり

●菖蒲小路

是は在原行平卿の侘居せられし所と云ふ　行平卿は平城天皇の皇子一品阿保親王の一男なり天長三年に在原の性を賜ひ承和七年より次第に昇進し齋衡二年正月に四位因幡守に任し同四年に兵部大輔に叙し貞觀十二年二月十三日參議に任ず年五十三同廿六日左兵衛督となり元慶六年正月に中納言に叙す年六十五同八年正三位民部卿仁和元年に按察使同三年四月十三日致仕となり終に寛平五年七月廿四日薨ず年七十六　行平卿謫居中に宮の内に侍る人へ遣しけるとて有名なる和歌あり

わくらばにとふ人あらば須磨の浦にもしほたれつゝわふとこたへよ　行平朝臣

●松風村雨

是は彼の行平卿に仕へ世に名高き松風村雨の二女を祭り本尊には觀世音を安置せり

又堂の後に二女の寶篋院塔あり又當村より三十丁北に多井畑村と云ふあり其村にも此二女の墓あり世に之を本墓と云ふ又此二女は多井畑村の生れと世に云ふなれども或書には讃岐國の生れとあり孰か其是なるを知らず祭日は毎年舊二月十五日なり

○是より街道を北へ半丁行く右側に前田氏の舊屋あり

●前田氏舊屋

前田氏往古は井戸莊中莊下莊の三莊を領せしと後世は此地の村甲にして維新迄は諸大名の宿泊ありて增々舊屋の聞へ高かりし今は其舊屋を取毀てり然れども庭前に菅公御手植の松とて名高き老松あり庭後に長田社弁天堂菅の井等ありて今に見物人許多來れり又家に奇品を藏む

●奇品

菅公自畫影　菅公へ菅の井の清水を奉りし時賜ふ所の御染筆とぞ

菅公須磨記　從二位實積卿の御筆

御宸翰　後陽成院

消息和歌　徳川大樹　石像　弘法大師　三尊彌陀　惠心の筆　西行の法師　手跡　一休和尚　手跡
秀吉二公

六字名号　元祖一遍上人の筆なり昔より遊行上人國巡の時此家にて供養に預らるゝとぞ　佐々木盛綱太刀　千壽院の作此外武器類　三夕和歌　六條宰相有藤卿冷木三位爲久卿藤谷三位爲信卿筆　制札　瀧川左近松平武藏守　古證文　増田右衛門津田惠閑　多し

●菅の井

是は菅公左遷の御時此井水を奉れば殊外御賞美あり御自畫の影像を賜ふと因て菅の井と名付く

●長田社

祭神事代主尊　攝社神功皇后　祭日毎年舊八月十八日神功皇后三韓より御凱陣の時詔あり前田氏の祖先出雲國より此處に觀請せり後妙善寺村即ち今の長田村へ舟形の社地を作り之に遷座し奉ると故に此宮を元宮と稱へ前田氏今に祭れり又此時より長田神社の例祭には生土六ケ村より前田氏を客家と稱へ又大祭には前田氏東尻池村坪の松にて神輿を迎へ請け自ら神輿を供奉し野田村字長樂にて神祭の式を執行ふ此時三韓退治の眞似とて藁人形三千三百三十三個を散々に伐るなり此例今は廢絶す

●辨天堂

是は長田元宮の下池の上にあり昔は境内裝飾し有りたれとも今は廢れて見る影たにもなし只前田氏に内祭するのみ

○是より街道を西へ少し行き右へ登れば藥師堂あり又藥師堂の東下段の人家の中に地藏尊あり

●賴政藥師

聖德太子の御作長壹尺余脇士十二神は尼か崎舊領主青山侯より寄附なり　例祭毎年舊二月八日夜鬼踊あり賑ふ　是は元と常福寺の本尊なりしも中古常福寺廢絶せし

より村持となり堂宇のみ保存せり又頼政薬師と云ふは久壽年間源三位頼政重興せし
より名付け云ふと又一説に此薬師は菖蒲の前の念持佛なりし故へ名付くとも云ふ
堂の西側に六字名號の石碑あり是は今より八十年程以前何人の所爲歟庚申塚に在り
しを此処に持ち來たれりと

●地藏尊

此寺は本號詳ならず是は早く廢寺となり其堂守は村持となり近年迄念佛堂と稱へ
折柴には村の信者とも集合して念佛をあげしも終に取毀ち本尊釋迦佛は頼政薬師へ
合祭して地藏尊のみ殘せり

○是より街道へ出て直き西に須磨寺外門あり又其門内に重衡松あり又是より西路守
川迄を下の町と云ふ又一名路ヶ町とも云ふ

●外門

往古は門の左に十王堂ありしも明治八年門と共に取毀てり又門の右側に石像あり是

は角の旅店建て增しの時取り除けしとぞ

●重衡松

古松なりしか暴風の爲め折て今其幹を殘せり是は壽永の亂生出の副將平相國の五男
重衡卿戰ひ敗れ此所まで落のび給へども遂に庄四郎高家梶原源太景季のために生
捕れ此松下に休息され給ふ其折村人名物の濁り酒を捧ければ重衡卿取り合へず一首
の和歌を詠し給ふとそ

さくぼうや波こくもとを打過きて須磨でのむこそ濁り酒なれ　重衡卿

○是より街道を壹丁程西へ行く源光寺あり

●源光寺

本寺は山號藩架山にて西本願寺の末なり中古火災あり其履歴詳ならず然れども永
正年間の創立と云傳ふ　或説に西宮左大臣の謫居地なりと又源光寺は現光寺の誤

なりと云ふ

●寶物

陣太誠あり由來詳ならず一説に一の谷東門の櫓に在しを當寺に納めしと云ふ

●芭蕉翁句碑

源光寺の門前にあり豐後國の俳士芳蘿坊の建る所なりしと

見わたせはなかむれはみれは須磨の秋　はせれ

●風月庵似雲跡

是は源光寺境内に在り此人初の名は如雲生國廣島の人なり歌道を好み儀同三司實陰公に學び後ち名山靈地を訪ひ都て居住を定めすと　或時人の今西行と云ふを聞きて西行に姿斗は似たれとも　ころは雪とすみぞめの袖　似雲

是より西行を慕ひ西行の墓所幷肖像を辛く河内國弘川寺に搜し得て一字を建立し

自らも其山中へ春雨亭と號く艸庵を結びしと

並ならぬむかしの人の跡とめてひろ川寺にすみぞめのそて

此時庵の狹ければ或人廣めよと進めければ

我庵はかたも定めす行雲の立居さはらぬ空とこそ思へ

庵の邊に櫻を植へ土地の山人にとて石碑に

折添へてわだにちらすな山柴にまじる櫻の下枝なりとも

又須磨村に在るとき

月にふけ須磨の上野の秋の風をはなの浪につくくらら波

延享四年正月十五日須磨盤濱を再興し初燒の時

絶て見ぬもしほの煙立かへりむかしにかすむしほ竈のうち

しほうれし昔の人の心まて今日汲みてしる須磨の浦なみ

又製盤を廢せし時

身にぞしむまたこゝ須磨に燒鹽の烟もたへしあとのうらかせ

其後京都嵐山の麓大井川の邊にまた庵を結ひ

住かへむ秋は紅葉のさがの山春はよし野の花のしたいほ

此外吉野高野山抔世離れし所に住終に和泉國蹲尾の北村氏に身をよせ八旬余にて歿せしと墓所は遺言により弘川に送り西行と同し墳を築きあるとぞ又著書は自記似雲聞書葛城百首などあり

●似雲の碑

本堂の右側にあり表に風月庵裏に和歌あり此和歌は有名なるものなりとぞ

いつこもと誰かいひけむ須磨の浦やかくるところの秋のゆふくれ

○是より街道を西へ行く石橋あり之れ關守橋なり又其下の川は路守川なり又濱方の高き處は櫓跡なり

●關守橋

此石橋は路川に架り其橋の東詰に關屋ありしより名付く

●須磨關屋跡

是は關守橋東詰の左右に在りしと此關屋は皇國四關の一にして其名高し

須磨の關夢をとふさぬ波の音をおもひもよらで宿をかりけり　慈圓

あはち島香かに見つるうき雲も須磨のせき屋に時雨きにけり　家隆

雪のもるすまの關屋の板ひさしあけゆく月もひかりとめけり　定家

●路守川

此川は古書に關守川路守川道遷川千鳥川と種々に書きありて其孰か是なるを知らず

淡路しまかよふ千鳥のなく聲はいく夜ねさめぬ須磨のせき守　兼昌

○是より石橋を越へ川をつけ登り行き當りを右へ渡るへし此邊は隱り江の跡なりと云ふ又川を越して左へ行く處に元三大師堂あり又此邊を字藩架と云ふ

●隱り江

今は田圃となり其區域等詳ならす然れとも昔は余程廣き江なりと見ゆ

こり江暦の隱り江に生るつき蓴浮きて身にものをおもふ頃かな　讀人しらず

●元三大師

是は今を去る七十年程以前濱須磨の漁夫彌左衛門引き網せし処其網にかゝり上り給ふ木像なり同人より代官所へ屆出れば代官所より一向宗へ納むへく命令あり乃ち源光寺へ納置し同寺より爰に安置す　此不思議なると遠近に聞へ參詣人多く一時最も繁昌せり

○是より北へ行き須磨寺へ行くべし

●須磨寺

本號は上野山福祥寺眞言古義にて高野山蓮華三昧院の末寺なり元と兵庫惠倡山に在りしを勅により仁和二年開鏡　上人　此処に移し開基せり上古は十二坊一山をなし當村第一の巨刹なりしも中古廢頽し源三位頼政重興し後ち復慶長七年の震災に罹るや豐臣秀頼公之を重興し且十六石の御朱印地となせり然るに維新後漸々廢寺となり今蓮生院正覺院の二ケ寺を存す

●仁王門

左右の力士は運慶湛慶の作なりと云ふ　此前の川は路守川の上流なり又此川より以西を城の内と云ふ

●行者堂

仁王門の内古松の下に在り是は延の行者を祭る　昔は此所に中門あり其内西側に坊舍ありし

●若木の櫻

是は中門の前玉垣の内に在り今植繼さなれども彼の辨慶の制札の爲め其名高し

●中門

此門は行者堂の下より明治廿四年此所へ移轉せり又此門に掲ぐ額は一の谷源平躑躅の大木を以て作りたる義經朝臣の馬盤なり之を義經朝臣歸陣の時當寺に奉納せられしを後世上野山の文字を入れ額になせしと云ふ

●寶物

敦盛赤旗名号　法然上人筆　爲敦盛室顔憐清菩提書之源空　脇に和歌あり

音壽丸世にこそすまてたへいりて彌陀の蓮にともに生るゝ

保呂衣名号　蓮生法師筆　脇に和歌あり　法の水すみ

と硯て書きをくも心行具足阿彌陀佛力　敦盛幼少手跡

よしやたゝとはれても又なくさまむおのれ跡なき庭の白雪　寄松　題庭の雪　音壽丸

祝言見とりなる松に千とせの色見せて久しかれとや軒の山風　敦盛畫影

熊谷直實の筆　敦盛初着の鎧　一領　高麗笛　正の作　學祐僧　青葉笛　師の作　弘法大制札　武藏坊辨慶の筆　須磨寺櫻　此華江南所無也一枝於折盜之輩者任天永紅葉之例伐一枝者可剪一指壽永三年二月　日

當寺の什寶は貞享年間に東京芝寶藏寺より貽納なりしものなりと

○本堂の椽側を右へ行けば敦盛堂十王堂護摩堂あり

●敦盛堂

敦盛の本像を祭る是は熊谷次郎直實自ら作り此寺へ納め菩提を吊と云ふ

●十王堂

是は元と外門の脇に在りしを十王堂取り毀ちの時より此所へ移轉せり

●護摩堂

是は不動明王を安置す

○護摩堂の前に松あり又其東傍に石佛多くあり

●相生の松

護摩堂の正面に在りて能く榮へり此松は幹壹本にて末は雌雄の二本に岐れ相生を又松の東側に往古は當山の鎮守熊野權現片桐旦元を祭る二社あり今其礎を存せり又山方には水佛を初め石佛色々あり其内の大塔は播州明石町の豪商虎屋某の空墓なり此處に建設しと其國の制度により商人は二段以上の石碑を建立するを許されず故に爰に建築して弔を爲せしと云ふ

○本堂の西側に大師堂あり其堂前に腰掛ケ松あり又大師堂の西側に參籠所あり其參籠所の前に釣鐘堂あり後に水大師あり西側に神功皇后の竿竹あり是より西山方へ登れば頸塚幷八十八个所あり道は頸塚の処より山へ登り水佛の処へ降るなり

●大師堂

弘法大師を祭る建立は天保年間なり此時前の總石垣を築き出せしと云ふ　祭日毎月

舊廿一日

●腰掛松

是は源義經朝臣一の谷攻の時此松に腰を掛け敦盛等の首級實驗せしとぞ

●辨慶の鐘

是は山田莊安養寺の鐘なりしを一の谷攻城の時弁慶陣鐘とし山越に持來りしと云ふ

●水大師

是は弘法大師杖を以て岩を突き水の湧き出でたる古事により爰に設けしとぞ

●釣竿の竹

是は神功皇后三韓より御凱陣の時此濱にて釣せられ其釣竿を此所にさし置れ給ふに不思議なる戴枝葉いで今の如くに繁茂せりとぞ

●敦盛頸塚

是は熊谷次郎直實敦盛を討取り首實檢の後此所に埋葬せしとぞ祭日舊二月七日の命

日此日近村より參詣人多し　敦盛の首は父經盛の方へ笛と共に送ると盛衰記に見へたり是等による歟頸塚腰掛松釣竿の竹又制札鎧抔は後世の拵へ物と云ふ說あり

●八十八个所

是は天保八年兵庫の人山田清兵衛の發起尽力によりて當山に設けり

●奥の院

是は山の頂上に在りて本尊は大日如來なり　又堂の後に稲荷社あれども由來詳ならず故に畧す

八十八个所の十六七番の所に社趾あり是は有名なる多井畑村厄除八幡宮の元と宮なり厄除八幡宮は往古須磨寺より勸請す故に遷座の當時は須磨寺より總て祭典を執行せしとぞ

○更に敦盛頸塚の前を南へ畑側を通り行き水なき川を渡るべし其向岸の下に地藏尊あり

●卜心地藏尊

是は字卜心の在るゆへ斯く云ふ　由來詳ならざれども今に茶湯を獻じて虚病の平癒を祈れば其効驗ありとて參詣人あり

○是より川を少し右へ下り出で古松ある林を見付け南をさして畑中を行べし古松の下に關守稲荷社あり又行く道側に笹生の森あり是は地神なり又道より少し離れ左に在る森は往古の埋葬地なりと云ふ

●地神

是は小神とも云ひて天照皇太神を祭り有りしが維新の際より廢絶せし此社は口碑に元と一の谷城内の鎮守社なりとぞ地神とは地神五代の神々を祭り有りしより云ふと又此地の守護神なりし故へ云ふとの二說あり又小神は太神の誤りなりと云ふ

●關守稲荷社

是は光源氏己の日秡をなせし古跡なりと因てまた之を己日稲荷社と云ふ　源氏物語

は作り双紙と云ふされば古跡のあるべくも無し　口碑に此処は最も上古の須磨村にして其鎮護社なりと又關屋は關守橋の處に非ずして此処にありし故へ關守稲荷社と云ふなりと

○鳥井を出で右へ行べし其道の竹藪谷の奥に蛇窟あり又街道に出れば左側に村上帝の社あり其前には片枝松あり後には師長の塚あり

●蛇窟

是は人民居住の初め此所に穴居せしと云ふ今窟内に土砂をち往古の形なし

●村上帝社

是は　村上帝の尊靈を祭る例祭は毎年舊八月朔日なり此邊り賑ふ　此社の由緒詳ならず村人の云ふ昔太政大臣藤原師長公琵琶の妙手を得むと絃上の名弦を携へ入唐の途次此浦へ立寄り給ふ其折節　村上帝梨壺皇女の靈現はれ給ひしかば獅々丸の名絃を捧げ　天皇より妙手を援り渡唐の事を止め給ふ処と云ふ是より師長公は琵琶の達人となられしとぞ　此諺は弦上と云ふ謡曲より出しものと云ふ

●片枝松

是は社前の東隅にあり七八年以前暴風の爲め折れ今は其幹のみを保存せり此松師長公の妙手に感し公の歸京を惜み都戀しと夜な〳〵夜泣して其枝を悉く東に向けしと云ふ

●師長の塚

是は社の後に在り琵琶宗匠師長の塚とも又名弦獅子丸の塚とも云ふ都て事實詳ならず

○是より街道を西へ行く停車場前筋に出づ此道は停車場設置の時村方より寸志に開きし道なり又是より西へ壹丁程行く本の谷とて右へ登る坂道あり此坂の西角は英國人傳也須氏の別莊又其西隣は神戸今井氏の別莊なり此両別莊の中間に往古は小天井川とて水高く流れしが維新後水路を轉し其跡を宅地となせり　路守川より以西此

川迄を濱須磨又は濱町と云ふ又此川より以西一の谷迄を八本松と云ふ八本松は近年まで田畑なりしが頓に人家となりたり

本の谷を登り畑中を山方へ行き左へ半丁程行くべし馬塚あり又戌亥に見ゆ山上に扇の松あり此邊に似雲法師の庵ありしが似雲法師立退の後之を源光寺境内へ轉築せりと云ふ今其跡たしかならず

●馬塚

是は薩摩守忠度の乘馬を此処に埋しと云ふ　此塚の上に樹木繁茂しありしが近年開拓して畑となせり

●上野

須磨の上野とは此邊の都て廣き処を云ふ又月の眺望によければ上野を月見の臺とも云ふなり

浪かけぬ須磨の上野の露にだになほ擬たるゝたびころもかな　淨阿

鈴舟のよする音にやさはぐらんすまのうへ野にきゝす鳴なり　顯昭

●後山

是は上野より北に在る山をすべて後の山と云ふ其山は卽ち青谷高倉柴山抔の諸山なり

問ふ人のおもひよりしも柴の庵のうしろの山にみちつけにけり

月出るうしろの山はくも晴れてすまのいはりにかへるうら風

○是より西へ行き道を右にとれば鐵枴山柴山に行く又左にとれば一の谷に下り街道へ出るなり

●鐘掛け松

是は鐵枴山の山腹播州地へ越す道の上方にあり古松は枯れ今植繼ぎなり　此松に武

藏坊辨慶鐘を掛け打ち鳴し、て一の谷の城を攻めしとぞ云ふ

●扇松

是は柴山の頂上に在りて扇の形なるより熊谷直實が敦盛を招きかへせし扇の形に似たればとて斯く人の名付けしものなり

●勢揃の松

是は鐵拐山の後にあり一の谷城攻めの時源義經朝臣此処にて勢揃へをなせしと云ふ

●一の谷

是は皇城の内壕なりと云ふ　谷の奥行五丁横幅三十間両岸の高さ十二間ありとぞ

○一の谷の右谷口を登るへし上に平坦の地あり之を内裏跡と云ふ此処より西に見ゆ圓き山を鉢伏山と云ひ又北に見ゆ峻き山を鐵拐山と云ふなり

●鉢伏山

是は　神功皇后三韓より凱陣の御途次此上に登られ給ふ時側に置かれし兜を叡覽あり此山の形は此兜の形に能く似たりと詔語ありしより斯く名付と又御兜の鎧を山上へ埋め給ふより名付とも云ふ　此山に登れば東南はもとより西播州地を眼下に見降し其眺望最もよし

●鐵拐山

是は昔多力の樵夫あり常に鐵拐を携へ此山に入りしと因て此名あり　此山に登れば廿四个國を見渡す故に舊明石侯世襲の度此頂上に登られ狼煙を上げ其合圖により領内の各村より同く狼煙を上げさしめ我領分の廣を一覽ありし処なり

●内裏跡

是は一の谷皇城の城なり今紫震殿跡と云ふ処に古松あり其下に　安德帝を奉祭す此処往古は凡五百坪計免租地にてありし

○是より元へ戻り一の谷を街道へ出づべし一の谷の石橋の東詰に二軒の旅舍あり

●海月舘松廼家

此二軒の旅舍は孰も海岸に在れば其眺望きはめてよく且海水浴場の設けあり養生人抔には適切なる故へ四時共に寄泊者の絶間なし

○是より街道を西へ行くへし戰の濱より又一丁位行けば二の谷あり又保養院あり

●戰の濱

一の谷石橋より以西を云ふ是も一の谷攻城の時源平二氏最も激戰せし所ゆへ此名ありとぞ

●二の谷

此谷は元と田畑なりしか近年に至り人家となりぬ　谷の廣狹は一の谷と凡そ同し

●保養院

是は明治十八年に二の谷の西岸より三の谷迄に建設せし須磨村第一の旅舍なり内には温泉場球突射場等ありて万端備はり且眺望よく實に保養院の名にうむかず春夏秋冬の別なく繁昌せり

●庚申塚

是は保養院内に山岸より水の湧く所あり其傍に在りしが保養院建設の時取毀ち今其跡を見ず此塚は庚申塚に非ずして公子塚なりと公子は敦盛にして敦盛の胴を埋葬せし処とぞ塚上に六字名号の石碑ありし其石碑は今顧政藥師に在り又其手跡は法然上人の筆なりと云ひ傳ふ

●經正最期の松

是は庚申塚の少し西の上方に在り此松の下方にて但馬守經正討れしより名付と云ふ

○是より街道を同く西に行べし古跡を道順に述ぶべし

●三の谷

谷の廣狹は二の谷に凡そ等し往古は田畑なりしが今療病院の建設あり

●療病院

是は保養院の西隣卽ち三の谷に在りて明治廿二年保養院と同時に建設せる鶴崎氏の

私院なり

●熊谷平山一二の懸

是は三の谷より以西の濱を云ふ平家物語に熊谷平山搦手にありしが先陣せむと熊谷父子此処に來たる後より平山成田の二人來たり魁せられ大に憤る趣あるは此処なり

●敦盛塔

三の谷の壹丁程西にあり是は北條西園寺入道平貞時平家一門戰死者冥福の爲めに之を建つと塔は五倫にして梵字あり塔の高さ壹丈余臺石四尺四方と云ふ然るに半は土砂に埋りて其全体を見る能はず

○敦盛塔の東隣に山林區署の官舍あり西四五丁の処に界川あり前には有名なる敦盛蕎麥屋あり後には窟稻荷社妙見宮あり又此邊の海中に數十個大石あり是は昔大坂城建築の時西國より廻漕し來たりしも既に大坂城落成し不用と聞き此処に石を投じて

歸帆せし其捨石なりと云ふ窟稻荷社妙見宮は宮林内に在るより此四五年以前山火事ありしより登山を指止められし故に今參詣すること能はず然ども其道筋は敦盛塔の西側より鉢伏山へ登るべし五丁程行く西側に窟稻荷社あり是より復五丁行く妙見宮あり

●窟稻荷社

是は祭神詳ならず往古より古狐を祭りあると云ふ此神へ海利を祈願すれば其驗ありとて漁民の參詣あり

●妙見宮

是は今を去る五十年程以前木食の僧侶來たり此上山に修行す之を山番見付けて病人の祈禱を依賴せし是より木食僧常には下山せざるも聘すれば來たりて祈禱す其祈禱大に效驗あるとて近村近郷より信者集へり是より信者に指圖して木食僧の建立せし宮なり其後間もなく木食僧告ずして去れり夫故其僧の生國姓名を知る者絶てなし祭

日は毎月午日往日は參詣多くありし

●境川

是は攝州播州の國境なり故に此名あり川中に傍示あり其柱頭に鋸目をいれ其に三本の釘を打ち淡州の高山を目止となし海上の境界を示す又中古海境の爭論あり右の目止に照準して小舟三艘に石を積み海底に沈め目止をなしあると云ふ

西東つのふり分けよ蝸牛

●火峠

是は須磨村より多井畑村に越す嶺なり一の谷攻城の時此処に義經朝臣狼煙をあげしより斯く名付とぞ

●鵯越

是は兵庫より丹生の山田郷藍那村を經て播州三木への往還なり鐵拐山より山脉連續

きなれども凡二里程北にあり

●須磨村の名物

●翠簾

是は一の谷皇城となりし時高貴の人々此村に宿泊させ皆翠簾を垂れ給いしが其遺風の今尚は存するとぞ此翠簾を茶室などにかける好古家のため往古は商ひありしと云

●磯馴味噌

是は麥を以て製したる味噌にして往古行平卿之を最も賞美せられ給ひしより終に此地の名物となりけり此味噌を賣ふ家數軒あるなれども其正本家なるは須磨寺外門前東へ入る舊札辻前屋號串屋關玉堂賴廣源左衞門なりと云ふ

すまの浦や味ひからさそなれ味噌海人のしはさもわびしかり鬼　讀人不知

詫ぬれば身にしむばかり旨かりさ須磨の麥みそうしはさらすい　似雲法師

●須磨燒

是は名倉山の土を以て製したる樂燒なり此燒物は何年頃誰の初めしや不分明なれども彼の有名なる西月なども燒しもありと

●濁酒

是は重衡卿歌に詠れしことあれば古き名家と見ゆ然るに今濁酒を製し商ふ家なし

須磨名所獨案內跋

須磨之勝不須斯書而著天下矣。雖然其所顯唯不過遠波載白帆而靜、淡洲橫眼前而幽、青松連岸頭而邃之勝景。若夫壽永之昔、富致饒趣之公平子、隱干彼逃干此、或遺器或遺屍以加一段之風致者、無斯書而不可知矣。故曰、闡須磨之幽者在斯書、添須磨之花者亦在斯書。以爲跋

奥山勿來

◎近刊書籍弘告

中納言行平卿事蹟考　任天居士編纂　全一冊

松風松雨事蹟辨　灣々漁長編纂　全一冊

一之谷實戰史　奥山勿來編纂　全一冊

須磨寺眞僞辨　任天居士　膽舟半漁合著　全一冊

文學小說　須广の琴　玄々草堂主人編纂　全一冊

明治廿五年九月十六日印刷
明治廿五年九月十七日出版

（定價金十錢）

發行兼編輯者　兵庫縣平民　赤澤日雄
兵庫縣八部郡須磨村ノ内東須磨村第九十一番屋敷寄留

印刷者　大坂府平民　筧政平
大坂府大坂市北區堂嶋濱通貳丁目七番地

印刷所　神戸日報社
兵庫縣神戸市相生町貳百九十貳番地

大賣捌　神戸市相生橋東詰　熊谷久榮堂

大賣捌　神戸市元町五丁目　船井新聞舗

版權登錄

セ×516

須磨八景

關屋跡秋月

鉄拐峯暮雪

上野落雁

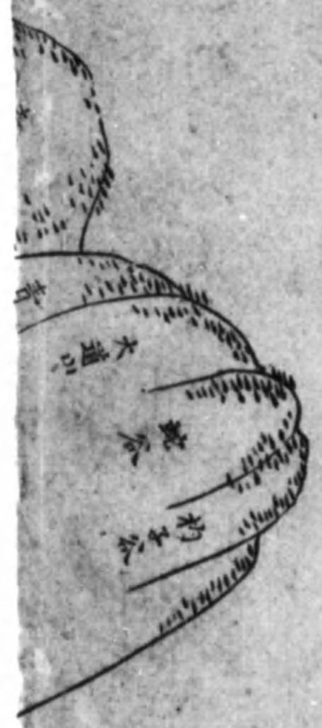
須磨寺晩鐘

内裏跡夜雨

淡路島夕照

鵯越晴嵐

明石歸帆



025509－000－3

特29－482

須磨名所独案内

赤沢　日雄（湾々漁長）／著

M25

ADC－2974